

あたたかなご支援ありがとうございました。

「知識は力である」

国境を超えパキスタンの子どもたちへ  
絵本を届けました

「困難な時だからこそ、子どもたちへの教育支援が必要だったと思います。ありがとうございました。」  
小学校の先生からの言葉です。7月末、SVAは、9ヶ月間に渡る救援活動を終了しましたので、ここにご報告します。



### 犠牲者の半数以上が子ども

2005年10月8日午前8時50分、パキスタン北東部でマグニチュード7.6の地震が発生。インド・パキスタン両国にまたがるカシミール地方を中心に、死者約7.5万人(内約3.5万人が子ども)、負傷者7万人を数え、全半壊の家屋はアザド・ジャンムカシミール地域において84%、北西部辺境州において35%という大きな被害が出ました。そして、約280万人が家を失い、居住、食糧などの支援を必要とする被災者数は320万人から350万人に上りました(国連データより)。



仮設校舎と子どもたち (マクリア・バラ小学校)

破損した校舎の壁

### パシュトゥン系アフガニスタン職員を現場へ

SVAは地震発生3日後にアフガニスタン事務所から被災地に職員を派遣しました。3年前に設立した同事務所には、内戦と政情不安のため、パキスタンの難民キャンプで過ごした職員、現在でも家族がパキスタン国内に生活拠点を置き、単身赴任で働いている職員もいます。そのため、パキスタンの公用語であるウルドゥ語が話せる職員も多く、アフガニスタンの一言語パシュトゥン語と使い分けながら、多くのパシュトゥン系住民が暮らす被災地での活動を円滑に行うことができました。以降、本活動のため加わったパキスタン人職員と共に、共通の文化を持つ被災住民への配慮を行いつつ、①厳格なイスラム圏の文化に配慮した物資配布、②地域の小学校における図書館活動を中心とした教育支援を行いました。



読み聞かせを行うアフガン職員

# 1. 生活に必要な物資配布活動

被災地は、パキスタン国内でも比較的開発が遅れた山間部であり、いくつもの渓谷がちな地域です。地震により道路が寸断され、被災地へのアクセスが困難を極めました。石やレンガでできた耐震性の無い家屋の倒壊により、多くの人々が犠牲となりました。今でも被災者の多くは、ひびが入ったままの家や配給されたテントでの生活を続けています。

被災直後迎えた冬には、降雪のため凍死・餓死者が発生することが危惧され、また、4月からは本格的な夏が始まったことで人々の生活は、困難を極めました。

SVAは、震源地から約40キロメートルの北西部辺境州マンセラ郡シンキアリ・バタル・イチリアン地区を中心に、文化に配慮した物資配布活動を行いました。下記の点を基準としました。

- ・国連、NGOなど他の支援が届いていないこと。
- ・その中でもより被害の大きい地域であること。
- ・高齢者や働き手を亡くしたりした復興の困難な世帯、貧困度合いの高い世帯であること。

## ①「当面の生活を支える」生活必需品

450世帯へ配布 2005年10月下旬  
米、油、小麦粉、お茶、粉ミルク、コップ、鍋、食器、毛布、ビニールシートなど24品。

## ②「くらしの再開を支える」生活物資

450世帯へ配布 2005年12月初旬  
ガスコンロ(炊事・暖房・灯りとして使用可能)、スコップ、くわ、ミシン、女性用のチャダ(大判のストールの様なもの)、水桶のプラスチックバケツ・手桶、洗濯洗剤、石鹸、など12品。

## ③「住まいの再建を支える」資材

1,000世帯へ配布 2006年5月下旬～6月  
トタン板(0.9メートル×2.4メートル)8枚。



物資配布の様子



テント生活する被災者の子ども

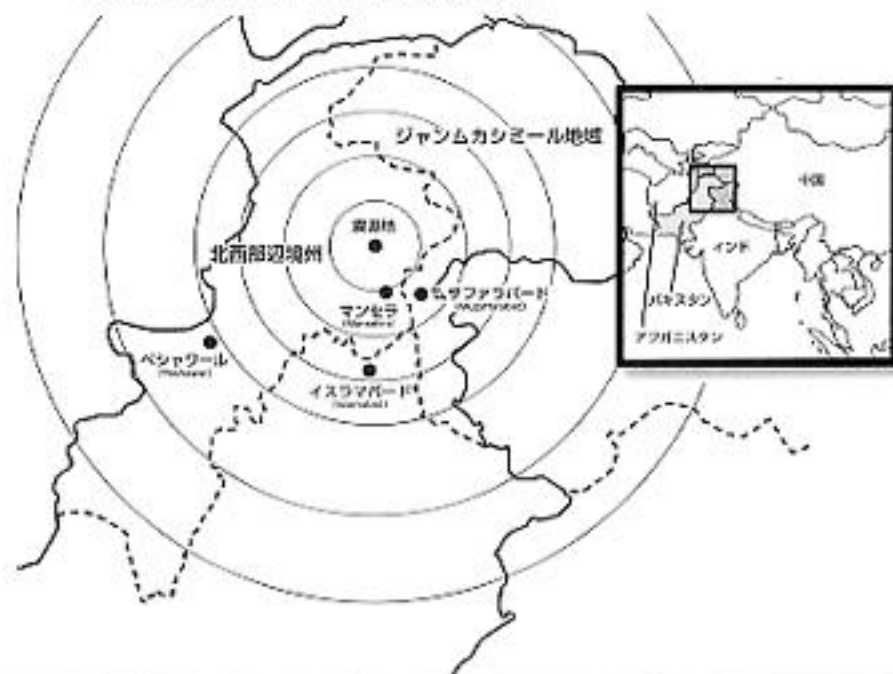


子どもの亡骸を抱く父親



配布したトタン板を使用した家

地域は、山間に阻まれ、朝から遅って数十軒にどうにか物資配給チケットを配布して終わる日もありましたが、スタッフは、より被害の大きい地域の避難キャンプや一軒一軒の家を訪問し、被災状況、家族の構成などを聞き取りながら物資配布世帯を決め、物資配給チケットを手渡しました。



## 2. 子どもの教育支援活動

犠牲者の半数以上は子どもでした。地震発生時刻は、ちょうど小学校で授業が始まった時刻。耐震性が不十分な公共事業で建設された石やレンガの校舎は瞬時に倒壊し、多くの子どもが学校で亡くなりました。地震の恐怖を経験し、家族や友だちを失って心が傷ついた子、校舎の倒壊を危惧して通学できない子どもたちも多かったです。

SVAは、マンセラ郡内の小学校30校(児童数計5,715名)を対象にした教育支援活動を行いました。下記の点を基準としました。

- ・国連、NGOなどの支援内容と重ならないこと。
- ・道路事情が悪かったり、市街地から離れていたりして支援が届きにくいこと。
- ・生徒数が多く、地域でも損害がより大きいこと。

### ①安心して学び図書に触れられるスペース

43棟設置 2005年11月～2006年6月

図書館兼教室として利用できる仮設校舎を設置し、子どもたちの学用品(通学カバン、ノートや筆記用具のセット)、学校備品(黒板、文具、教員用机・椅子、飲料水ポット、辞書、地図、教材ポスター、クリケットやバドミントンなどスポーツ用品)と図書館備品(本棚、丸机、お絵かきセットなど)を配布しました。早速、新校舎で授業や様々な活動が開始されました。



完成した仮設校舎



通学カバンと学用品の配布



倒壊した学校

### ②絵本配布と図書館員研修会

108名の先生が受講 2005年11月～2006年6月

図書室を設置している公立校は無く、教科書以外に子ども向けの図書はありませんでした。

北西部辺境州教育局職員が選出した、アフガニスタン事務所で出版しウルドゥ語の翻訳シールを貼った民話絵本12タイトル計7,640冊、パキスタン国内で販売されているウルドゥ語絵本計6,314冊を配布。またアフガニスタン職員による教員向けの図書館研修会に計108名の小学校教員が参加。春・夏休みも多くの子どもたちが図書館に通ってきました。



▲仮設校舎の中  
▼ヒラバヤン小学校



### ③子どもたちが楽しめる行事

約3,000名の子どもが参加 2006年3月、7月

長期にわたる被災生活のストレスを癒すため、子どもたちが楽しめる行事、遠足とおたのしみ会を実施しました。首都イスラマバード(高学年)と近隣地の公園(低学年)への遠足に12校計1,686名が参加。また、手品ショーとアニメ映画上映を組み合わせたおたのしみ会に18校計1,411名が参加。子どもたちは初めての経験に、大はしゃぎでした。

# 教員、住民からの感謝の声

## 支援校ハザラ小学校より、 SVAに送られた感謝状



記念プレート訳文

シャンティ国際ボランティア会会長殿

シンキアリ、ハザラ小学校校長

アブドゥル・レーマン・スレリア

パキスタン地震被災地における教育の復興に対する、献身的な支援活動へ感謝の気持ちをこめ、ここに敬意を表します。



### ベラバダン女子小学校

保護者 ジャンゼブさん50歳、ゼナブちゃん12歳

娘はとても喜んで毎日図書館に行きます。おはなし会やおたのしみ会など全てとても楽しんでいます。私も子どもたちにとってとても良い活動だと喜んでます。本当にありがとうございました。

## 教育を緊急救援活動に

緊急時にこそ、子どもたちを日常の生活状態に戻してあげること、教育を継続することが大切であると考えます。SVAは、子どもに視点を向けた教育と文化の緊急救援活動を今後も行っていきたいと考えています。多くのご支援を本当にありがとうございました。

## パキスタン北東部地震救援事業収支決算見込 期間:2005年10月~2006年7月末時点

### I 収入の部

1Rs(1"ルピー")=2.00円

区分	項目	修正予算金額	収入見込
民間資金	個人からの募金	10,000,000	81,826,313
	関係団体・企業等からの募金	40,000,000	
(1) 収入合計		50,000,000	81,826,313

### II 支出の部

区分	項目	備考	修正予算金額	支出見込
救援物資提供費	冬期用仮設テント、毛布・防寒用具、ヤカン・鍋等調理用具、その他生活用品		17,981,167	22,397,496
被災児童支援費	仮設校舎、学用品、学校備品、遊具、図書等		14,000,000	17,361,086
(a) 被災者支援事業 小計			31,981,167	39,758,582
渡航・移動費	渡航費用、パキスタン国内交通費等		1,305,000	3,055,412
派遣人件費	日本人・アフガニスタン職員人件費・滞在費		2,970,000	5,805,155
車両運送維持費	車両購入・借上経費(油代含む)		648,000	6,121,228
広報・報告経費	募金呼びかけ・事業報告経費		2,250,000	4,394,388
その他活動維持費	通信費、現地事務所運営費等		2,512,500	3,374,284
(b) その他直接的経費 小計			9,685,500	22,750,467
① 直接事業費 計 (a) + (b)			41,666,667	62,509,049
② 事業管理費 (1) × 20%			8,333,333	12,501,810
(2) 支出合計			50,000,000	75,010,859
(3) 収支差額 (1) - (2)			0	6,815,454
(4) 緊急救援基金へ繰入			0	-6,815,454
(5) 収支差額再計 (3) + (4)			0	0



社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2-3F

Phone/03-5360-1233 Fax/03-5360-1220

URL/http://www.sva.or.jp E-mail/info@sva.or.jp